

## はじめに

『奉仕しようみんなの人生を豊かにするために』Serve to Change Lives が 2021-22 年度の RI 会長が掲げたテーマとなりました。また田島次年度ガバナーは、「ロータリー奉仕デー」・「1 クラブ 1 奉仕事業」の実施も目標にしています。この事から考えますと、奉仕プロジェクト部門に関わる皆さんは大変重要な役割を担う事となります。改めてロータリーの奉仕について考えてみたいと思います。奉仕理念についてはとても奥が深くこの資料の中で全てを解説することは出来ませんが、基礎的な事を掲げてみました。

## 奉仕理念 The Ideal of Service （公式標語）決議 23-34

"Service above self" 「超我の奉仕」

"One profits most who serves best" 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

「超我の奉仕」は、「他人のことを思いやり、他人のために尽くすこと」と定義されている社会奉仕、国際奉仕を含む人道的奉仕活動の理念です。

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は、ロータリー運動の本質ともいえるべき職業奉仕の理念です。ロータリーが他の奉仕団体と大きく異なる点は職業奉仕です。

## ロータリーの目的 The Object of Rotary

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

第 1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第 2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第 3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活に於いて、日々、奉仕の理念を実践すること。

第 4 奉仕の理想で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

少しわかりやすくすると、

第 1 は、知り合いの輪を広げ（会員増強）ロータリー運動（奉仕）に参加させ目標を共有する人たちと一緒に活動できるようにつながりと機会をつくり出して行きましょう。

第 2 は、社会に奉仕する機会を得るために、ロータリアン各自が高い倫理基準を保ち、職業を高潔なものにしましょう。

第 3 は、ロータリアン一人ひとりが、個人的な事や、仕事面でも、また社会生活の中でもそれぞれ奉仕活動を実践しましょう。仕事の面で実践することが職業奉仕。社会生活の中で実践することが社会・国際奉仕。

第 4 は、奉仕の理念でむすばれたロータリアンが国際的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を促進しましょう。

追記：「ロータリーの目的」の 4 つの項目は、等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならぬものであるということで、RI 理事会の意見が一致している。

## 五大奉仕部門 Five Avenues of Service

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリークラブの活動の哲学的および実際的な規準である。

1. 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。
2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かして行くという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、業務を行うことが含まれる。
3. 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。
4. 奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や習慣、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。
5. 奉仕の第五部門である青少年奉仕は、指導力育成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化をもたらされることを認識するものである。

この五大奉仕部門（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕）は、ロータリーの精神的な礎であり、クラブ活動がよりどころとする基盤となります。

「クラブ奉仕」は、親睦活動とクラブの機能を充実させること。

「職業奉仕」はロータリアンが自らの職業を通じて人々に奉仕し、高い道徳水準を実践すること。

「社会奉仕」は、地域社会の人々の生活の質を向上させるためにクラブが行うプロジェクト。

「国際奉仕」は、世界中におけるロータリーの人道的な活動を広げ、世界理解と親善、平和を推進すること。

「青少年奉仕」は、指導力養成、奉仕プロジェクトへの参加や交換プログラムなどを通じて、新世代に好ましい変化をもたらせるための活動。

## ロータリー財団の重点分野の追加

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

平和と紛争予防/紛争解決

疾病予防と治療

水と衛生

母子の健康

基本的教育と識字率向上

経済と地域社会の発展

ロータリー財団管理委員会と国際ロータリー理事会は、「環境」という新たな7つ目の重点分野を追加しました。過去5年間、財団のグローバル補助金では、1800万ドル以上が環境に関連したプロジェクトに充てられてきました。環境を支援する別個の重点分野を設立することで、ロータリアンが世界中の地域社会で好ましい変化をもたらし、より大きなインパクトを生み出す一助となります。

## 終わりに

当地区の相澤光春パストガバナーがガバナー時代に月信に掲載した文章を引用して終わりにしたいと思います。元R I 理事で第 2710 地区の南園義一パストガバナー（防府ロータリークラブ）との対談です。これからの活動のヒントとなれば幸いです。

相澤PG：中核的価値観についてお考えをお聞かせください。

南園PG：ロータリーの奉仕は一体的なもので、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、それぞれを断面的に捉えるのではなく、また一面的に考えるのでもなく、包括的なものとして考えてほしい。ロータリーの奉仕は、総合的で柔軟、且つ機能的なものとして捉え、「ロータリーの目的」の最後にある4つの項目の後段にある「等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならない」とありますように、色々な奉仕活動が重なり合っただけで一体として考え、実践に移してゆくという事です。

奉仕は、Avenue クロスロードのようなものです。いくつかの奉仕活動が交わるところが奉仕で、立体的に機能的に考える事が大事なのです。奉仕の順序にこだわる必要もなく、一面的でもありません。

クロスロードになっているところが一番の焦点であると考えることが大切で、総合的に機能的に、矮小化させないように実践に結びつけます。それは、I serve であっても We serve であっても良いのです。

相澤PG：中核的価値観にある親睦をどのようにお考えですか。

南園PG：奉仕の中に親睦が生まれてきます。又、親睦の中から奉仕の概念が生まれてきます。両方が相まってお互いに活動の中から人間関係が良くなってゆきます。その人間関係が良くなれば、お互いの相互作用が出てきて、より良い奉仕活動をするようになり、良いロータリアンが生まれてきます。そう理解をしてほしいですね。職業奉仕をコミュニケーションとして捉えるとイメージしやすいですね。皆さんは、ご自身の職業を通じて社会と関わっておられます。そして社会にある職業を務めさせてもらっています。この事が重要で、社会とコミュニケーションを大事にした職業人たちは社会との関わり合いをどう捉え、また社会に還元して行くかを考え実践してゆきます。そうしますと、社会から得られる尊敬や信頼が自分に返ってきます。そういった信頼感が、ロータリアンが尊敬される所以となり、結果的に自分の利益にもつながってゆくのです。コミュニケーションとは、分かち合い、持ち合いでもあるのです。

次年度地区奉仕プロジェクト（職業・社会・国際奉仕）委員会は、皆様のクラブが効果的に奉仕プロジェクトを計画、実施できるよう、ご必要であればお手伝いさせていただきたいと思っております。どうぞ、ご遠慮無くご相談ください。一年間よろしく願いいたします。